第10回 ひがしかわ東京会 総会

ひがしかわ東京会 副会長
中竹正純

第10回 ひがしかわ東京会総会を6月14日都内シーサイドホテル芝弥生に於いて開催した。平成18年に設立総会を開催し早いもので第10回目の総会を迎えました。節目となる総会に先立ち記念講演会を実施しました。

1.「写真の町」東川町が開拓120年、国立公園指定80周年を記念して出版した「大雪山」の執筆者、西原義弘氏と写真撮影者、大塚友記憲氏による出版に至る迄の経緯とch著書のあらましについて紹介

1.参議院議員 中山恭子先生による北朝鮮の「日本人拉致問題」についての講演

また、先のソチオリンピック、スノーボード女子パラレル大回転メダリスト 竹内智香さんが東川町関係者に対し、応援とサポートに対するお礼の挨拶がありました。

今回は第10回総会という事で来賓41名の御出席を頂き総勢85名による盛大な総会となりました。この10年間、外から見た町に対する感じた事を少し述べたいと思います。

町は将来の安定と発展を考えた「プライムタウンづくり計画」を策定し、平成20年から24年までの5年間松岡町長の強力なリーダーシップのもと、これを実施し確実にその成果を上げています。今回の総会で町が取り組んでいる施策のひとつである人口問題でも、今年の5月には目標を上回る8,030人に到達した旨の紹介がありました。この事一つを取っても東川町は毎年着実に前進しており故郷を離れて生活している者にとっても大変嬉しい限りです。

旬の毛ガニとホタテ 東京サロマ会の集いに133人

東京サロマ会 事務局 西沢孝洋

東京サロマ会（足利稔会長）はさる四月五日（日）の正午から、江東区の亀戸天神社で「第十一回オホーツク・サロマの旬を食べる集い」を開き、会員ら百三十三人が参加して海明けの毛ガニや新鮮なホタテなど北海道の味覚を堪能しました。

〝美味しさの詰まった海明けの浜茹で毛ガニを首都圏の人たちに食べてもらおう〟と始めたのが平成十四年。この集いの発案者で会のPRプロジェクト部長をつとめる櫛部顧問が乾杯の音頭をとり、小松顧問も一キロ級の大物毛ガニのオークションに采配をふるいました。参加した人のなかには毛ガニ一匹をまるまる食べたのは初めてという人もいて、大満足の様子です（写真）。

「毛ガニはオホーツク海、ホタテはサロマ湖」ということですが、参加者に配ったリーフレットのなかに「ホタテ養殖発祥の地」―サロマ湖―の写真と文を載せ、サロマPRにつとめました。ちなみに、ホタテはいま天然と養殖を合わせて年間五十二万トンと魚介類で最も多い漁獲量を誇り、これを可能にしたのが養殖です。

サロマ湖とオホーツク海は二十五キロもの砂州で隔てられ、二か所の湖口で繋がっています。もとは、常呂の栄浦だけに開けていたのを湧別側が海への出口を求めて掘削を強行し、その結果潮流が変化して湖にホタテの稚貝を発見したのが昭和六年のこと。その後研究者や漁民たちの長い試行錯誤のすえに昭和三十九年、全国に先駆けて養殖漁業の結実をみたわけです。

あれから40年

神奈川県北海道道人会 会長
今政幸

横浜・京急線日出町駅から徒歩5分ほどに大岡川を挟んだ横浜最大の歓楽街・福富町のネオン煌めく一角の店の前に大きな提灯に北海道料理「札幌」という居酒屋があった。提灯の通り北海道の懐かしい料理（三平汁、チャンチャン焼き、ニシン漬け）が食べられるためヨー繁盛していた。特に北海道の「水だこ、ホッキ貝」は絶品、冬になると「ごっこ汁」が有名で身体の芯まで温まるので人気の鍋でした。マスターから北海道で「ごっこ」が上がったので何時何時、「ごっこ汁」をやるよと常連客に声がかかる。

小生も北海道が恋しくなり、良くこの店に通いました。店主も北海道出身で客に気軽に声かける「道産子お父さん」でふるさとの話についついお酒が進んでしまいました。

北海道出身の常連客が多いことから店主の方から神奈川県北海道道人会を作りたいとの発案で発足しました。札幌という店なので北海道出身のお客がふるさとの味を求めて来店、店主が客同士の中を持ち、どんどん其の輪が広がりました。店主のふるさとを思う「一念」が通じ40年前に産声を上げました。発足当時は風呂屋の脱衣場を借りて「かるた会」「年一回の総会」秋には百貨店のレストランで収穫祭に併せて「道産子の夕べ」などを行い常時100人程の会員が参加しておりました。千歳観光連盟の応援や当時の横浜市長の出席で「道産子の夕べ」は最高の盛り上がりを見せておりました。

あれから40年

当時を振り返り懐かしい限りです。現在は休眠状態ですが、又何時かはという思いで夢は捨てておりません。歴史的には40年経っております。名前だけの会ですが私と2人副会長、代表幹事の容は有ります。6年前から「北海道ふるさと会連合会」に理事を選出しております。これからも北海道ふるさと会連合会を陰ながら応援をしてまいります。

個人出版・会報などの制作いたします。
お気軽にご相談下さい。

株式会社 双文社

電話：03-3815-0055
FAX：03-3815-0074

NPO法人日本自費出版ネットワーク